

学生短期海外交流プログラム (SS・SV)

学生短期海外交流プログラム (SS・SV) の報告

歯学教育開発室 石 田 陽 子

新潟大学歯学部では、学生短期海外交流プログラム（通称SSSV：ショートステイ・ショートビジットプログラム）を行っております。

これまでの経緯と概要としては、以下のようになっています。

- ▶2011年度より開始
- ▶2020-2022年は新型コロナウイルスパンデミックのため渡航制限あり
- ▶2022年度3月期より一部SV再開、2023年度よりSS・SVともに本格的に再開いたしました。

【SV（本学学生を派遣するプログラム）】

派遣先は毎年変動しますが、今年度の見込みは以下となっております。今年度より、期間は16日間が標準となりました。

8月：インドネシア

3月：WHO本部、スウェーデン、アメリカ、カナダ、タイ、ベトナム、台湾

プログラム内容は現地教員に一任しますが、こちらからリクエストすることもあります。

英語圏の大学は学年制限（臨床実習生以上等）を設けているため、5年生以上が対象となります。低学年学生はアジアの学生と交流して英語力を伸ばし、高学年で英語圏のプログラムに参加することが望ましいと考えております。参加回数の制限はないため、過去には6年間で3回参加した学生もおります。

さて、実際に参加した学生の印象はというと

- ・異文化体験を十分にできた
- ・自分は低学年だが、歯科病院の見学をさせてもらえた
- ・高学年のみのプログラムでは、ハイレベルな歯科治療や、日本と違う教育カリキュラムを見ることができた
- ・地域歯科保健活動に参加し、学校や幼稚園を訪問できたのがよかった
- ・英語をもっと頑張ろうと思った
- ・英語も日本語も話せる現地学生がいて驚いた

帰国後は、多くの学生が「もう一度参加したい」と言って次年度に再応募してくれます。

海外経験がないのでチャレンジしたものの、異文化に慣れることができなかった、という学生もおります。日本の良さや改善すべき点を学んで帰ってきたのであれば、日本で根ざして頑張ろうという気持ちになり、それも一つのアウトカムだと考えております。

【SS（短期留学生受入プログラム）】

交流協定のある外国の大学歯学部から、8月と3月に短期受入プログラムを行っております。留学生は初日にオリエンテーションを行い、歯学部のほぼ全分野の教員から英語で講義・実習を受け、大学病院歯科部門、口腔外科手術室の見学をします。講義実習では学部生向けにわかりやすいトピックを盛り込んでいただいたり、また将来の大学院入学を見据えて現在進行形の研究について話していただいたりしています。また病院見学では、設備だけでなく、診療の流れやスタッフの動きが非常にシステムティックで、母国とは大きく違うと驚かれます。コロナ禍では本学学生との交流が難しかったのですが、感染症が落ち着いてい

る期間は学生交流を推奨し、プログラム中の放課後や休日などに食事や観光に出かけております。

2025年度も本プログラムを継続予定です。分野の先生方、どうぞご協力のほどお願い申し上げます。



GCデンタルオアシス訪問（2024年8月）



有志の留学生と佐渡旅行（2024年8月）



弥彦観光（2023年8月）



修了式（2024年3月）

複数のSV渡航で得たもの

歯学科5年 清水 香奈

私は昨年度の8月にインドネシア・アイルランガ大学のサマーコース、3月にスイス・WHO、スウェーデン・マルメ大学の留学プログラムに参加させていただきました。私は国際交流に興味があり、かねてよりSSSVに参加することが目標であり、夢でした。コロナも落ち着き、このような経験を年に2度もさせていただけたことに大変感謝しております。今回4回目の歯学部ニュースを書かせていただいておりますが、念願のテーマで書くことができ非常に光栄です。

アイルランガ大学のサマーコースには、私たち以外にも日本の他大学（東京医科歯科大学、大阪大学など）、イギリス、韓国、マレーシアの学生が参加し、共通言語である英語で交流を深めて文化の違い等を実際に肌で感じることができました。また、口唇口蓋裂手術見学、病理試験片製作や法歯学講義といったプログラムの数々は、当時4年生の私にとって何もかもが新鮮に映り、感動の連続でした。そして私が一番印象に残っているのは、アイルランガ大学歯学部の学生の前で日本のPublic Healthについて英語でプレゼンをしたことです。300人にも及ぶ学生が私たちのプレゼンに耳を傾け、プレゼン後は先生方も含めた白熱したディスカッションが行われました。日本のPublic Healthに興味津々な彼らからは質問の嵐でしたが、私自身の不十分な知識と英語力では明確に答えられない部分が多々あり、大変悔しい思いをしました。それ以来、普段の学習や英語力の習得に対するモチベーションを高く持ち、日々精

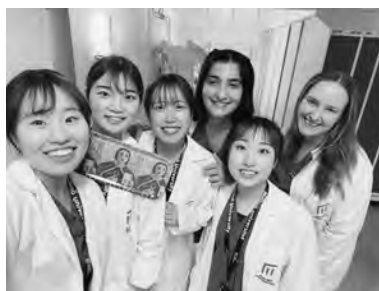
進しています。

WHO・マルメ大学の留学プログラムは、Public Healthに興味のある私にとって非常に充実した滞在でした。WHO本部のオフィス見学では、国や民族の違う人同士が何気ない会話からディスカッションまで英語でしている姿を実際に目にし、大変刺激を受けました。1人1人が輝いて見え、大きな憧れを抱きました。それだけでなく、私たちはオフィサーの方々と実際に言葉を交わし、WHOがどのような取り組みを行っているのかを知ることができました。マルメ大学では、主に学生の臨床実習を見学しました。新潟大学は4年生までに模型実習で技術や知識を会得したのちに5年生後期から臨床実習で実際の患者さんを診療しますが、マルメ大学では2年生から始まることを知り、驚きました。模型実習と患者さんの診療を並行して進めるカリキュラムとのことでした。スウェーデンは歯科医師に研修医制度がない上、学部教育が5年間であるため、限られた時間で早いうちから患者さんに触れる機会を増やすことが目的なようです。どちらのカリキュラムも一長一短があり、違いを目の当たりにして興味深かったです。そして私の憧れのヨーロッパの美しい街並みに囲まれた3週間の滞在は夢のようでした。

SSSVで得たものは貴重な経験だけではありません。多くの友人が海外にでき、今年タイ・バンコクで行われたAPDSA（アジア太平洋歯科学生会議）で再会したり、彼らが来日した際に日本を案内したりと、私の歯学生としての日常を豊かにさせてくれました。最後になりますが、小川先生や石田先生をはじめとする多くの先生方のおかげで私の今後の人生の大きな糧となる多くの経験を行うことができました。ありがとうございました。



インドネシア・アイルランガ大学でのプレゼンテーション（筆者一番左）



スウェーデン・マルメ大学でStudent Unionの学生と（筆者右から2番目）



憧れのWHOでくまのぬいぐるみと（筆者左から2番目）

WHO・マルメ大学でのSSSVを終えて

歯学科5年 平岡 望々

私は2024年3月に約4日間はスイス・ジュネーヴへ滞在し、世界保健機関（WHO）本部へ、約2週間はスウェーデン・マルメ大学でのSVプログラムに参加させていただきました。

WHOでは本部で活躍されているオフィサーの方々のお話を伺い、WHOの概要やコロナワクチンの状況、Oral Health、タバコと口腔健康に対するWHOの取り組み、UHC（Universal Health Coverage）についてのディスカッションを行いました。特に口腔保健についてはWHO Collaborating Centerである新潟大学との繋がりを感じる場面もあり、印象的でした。また、国際機関で若い人が活躍する場を支援するJPO制度を通じて働かれている日本人オフィサーの方から、若手のうちからWHOでの勤務に挑戦できる機会があると聞き、非常に興味深かったです。他にはカフェテリアで先生方とランチをしたり、オフィス見学をしました。WHOの周辺はUN本部やUNICEFなどの建物がいくつも集積した国際機関関連都市ようになっており、胸が高鳴りました。

マルメ大学では主に講義やディスカッション、診療見学をしました。現地の学生は2年生後期からStudent Clinicで臨床実習を行っており、その早さと、各学年で1年間1つの診療科にて実習することに驚きました。早くから患者さんに関わるためか、最終学年（5年生）では急患対応もスムーズでとても慣れた様子だったので自分たちと差があるように感じたのを覚えています。患者さんもしっかり協力的で、う蝕を触ってみたり簡単なアシストをさせていただきました。先生方とは自国の歯科事情や医療福祉、歯学部のカリキュラムなどについてディスカッションし、歯科医師偏在の問題など日本と似ている話題もありましたが、やはり予防歯科への意識や制度など異なる点が

多く、驚きつつも非常に勉強になりました。

また、スイスではサンスター本社、スウェーデンではTePeへ訪問し、社内・工場見学や企業の歴史や取り組み、製品のレクチャーを受けました。ヨーロッパでは歯ブラシの先端がディスポーザブルで持ち手が繰り返し使用できるものや、持ち手が木製のものなどが人気で、日本よりもSDGsやサステナブルへの意識が高かったです。

今振り返ってみても上記の内容では全く書き足りないほど、毎日が貴重な経験ばかりで、プログラムの内容だけでなく食事や生活文化、価値観や国民性の違いにおいても学ぶことが多く、とても濃く充実したSVだったと実感しています。私は編入学した3年前の歯学部ニュースにも書かせていただいたのですが、医療行政に携わり保健医療の方向性を先導できるような歯科医師になりたいと思い編入しました。今回、世界最高の保健医療機関であるWHO、福祉国家・予防歯科先進国であるスウェーデンで多くの新たな知見を得られたことは私にとって非常に大きな刺激となり、自分の目標に向かって、改めて日々精進したいと思います。

最後になりましたが、日本からスイス、スウェーデンまで引率してくださった竹原先生をはじめ、WHOとマルメ大学訪問にあたりご支援くださった小川先生、石田先生、現地でお世話になった先生方に変感謝申し上げます。



WHOの前にて
（筆者右から2番目）



マルメ大学のポッセルトのオブジェとともに（筆者1番右）

SSSV報告

歯学科5年 宮田優奈

2024年3月に日本学生機構（SSSV）のプログラムに参加し、スイスのジュネーブに3日間、スウェーデンのマルメに13日間滞在しました。

スイスでは、WHOとサンスターに訪問しました。WHOでは仕事内容やオーラルヘルス、喫煙と歯科などについてお話を聞きました。WHOの内部について知ることができ、さまざまな国の人が交流して仕事をしているところを目の当たりにし、とても刺激的でした。サンスターではヨーロッパでの歯科市場についてお話を聞きました。企業が国民の口腔ケアに対してどんな商品開発がされているのか知ることができ、普段は医療従事者から患者に対しての視点でしか口腔ケアについて考えていませんでしたが、企業から利用者に対しての新しい視点で口腔ケアを考えるいい機会となりました。そしてヨーロッパでは、SDGsを取り入れることが国民の中で当たり前になっており、ヨーロッパと日本のSDGsに対する意識の差があると感じました。

スウェーデンではマルメ大学と歯科企業のTepelに訪問しました。マルメ大学ではスウェーデンの医療制度についての講義、臨床実習の見学をしました。スウェーデンの医療制度では、23歳までは医療費が無料であること、う蝕が日本よりも少ないことなど良い点があった反面、う蝕を経験せずに大人になったため近年歯ブラシの重要性を伝えきれていないことや、口腔ケアの知識は地

域によって差があるという問題点など、現地の人から話を聞くことでスウェーデンのリアルな部分を学ぶことができました。そしてマルメ大学の学生の積極性にとっても良い刺激をもらいました。Tepelに見学した時も現地の学生が企業の人と積極的にディスカッションをしていました。スウェーデンは年齢的な上下関係という概念がありません。話し相手がどんな人でも対等に話せる環境があることで自分の意見を発言しやすく親密な関係になりやすいのではないかと思います、日本とは違った良さがあると感じました。講義や臨床実習見学の後には、現地の学生とランチや夜ご飯を食べ、最終日にはみんなでミートボールを作るなど交流を深めることもできました。

今回のSVプログラムでは、大学で歯科のことを学んだだけでなく現地に足を運び実際に生活してみることで分かったこと、経験できたことが多くあり、とても有意義な時間を過ごすことができました。約3週間のプログラム、飛行機の欠航やロストバゲージなど多少のトラブルも起こりましたが、多くの人のサポートがありとても充実した毎日でした。どの経験においても共通していることは、どれだけ英語で自分の意見を伝えられるかだと思いました。とっさに伝えたい英語が出てこない時や、相手の言っていることを100%理解できなかった時は悔しい思いもしました。しかし、日本で過ごし、日本で海外のことを学ぶだけではわからなかったことをたくさん経験することができ自分の価値観を広げることができました。このような貴重な機会を作ってくださった先生方にはとても感謝しています。

WHO・マルメ大学SSSVに参加して

歯学科5年 石 塚 萌 絵

今年3月に、海外留学支援制度（SSSV）プログラムでスイスのジュネーブにある世界保健機関（WHO）本部ならびにスウェーデンのマルメ大学を訪問させていただきました。3月3日に日本を出発し、ジュネーブに4日間、マルメに14日間滞在しました。

WHO訪問では、WHOに勤務されている方から講義を受け、WHOの機能と役割、喫煙と健康について、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）について学びました。これまで歯科医療について世界規模で考える機会が少なかったため、世界では人種や文化を超えた支え合いが実現していることを知り、とても刺激を受けました。夕食はWHOで勤務されている日本人の方々とチーズフォンデュを食べました。本場のスイスチーズは想像を超える濃厚さで、あまりの美味しさに感動したことを覚えています。ジュネーブ訪問後は、飛行機でデンマークのコペンハーゲンへ渡り、マルメまで列車で向かいました。

マルメ大学訪問に際して、スウェーデンが歯科先進国であることが今回のSV参加理由の1つとして挙げられます。現地の歯科学生がどのような環境で学んでいるのか、更にはスウェーデンの国民が歯科医療に対してどのようなイメージを持っているか、自分の目で確かめたいという気持ちが強くありました。今回の訪問で、特に印象に残ったことが2つあります。1つ目は学習カリキュラムです。マルメ大学歯学部は5年制で、基礎科目

と臨床科目を並行して学習します。新潟大学では5年生の秋から臨床実習が始まりますが、マルメ大学は2年生の後期から臨床実習が始まります。座学や模型実習で習得した内容をすぐに臨床で実践することができる点は非常に良いと感じました。

2つ目は、スウェーデンの人々の予防意識の高さです。大学病院を受診する患者さんはみな協力的で、う蝕が少ない方が多く見受けられました。実際に話を伺うと、23歳まで医療費が無料であることで、幼少期から定期的に歯科を受診することが当たり前になっているそうです。また、家庭によっては土曜しか子供にお菓子を与えないと聞き、とても驚きました。スウェーデンと日本はどちらも高齢化社会であり、国民皆保険が存在するという共通点があります。しかしスウェーデンに広く普及している「治療するとお金がかかるから予防する」という考えは、「悪くなってから治療する」という考えが残っている日本と大きく異なると感じました。

約3週間の滞在は毎日刺激的で、自分の視野が広がったと感じました。また、ポリクリを控えた4年生の春休みに参加したため、臨床実習に対するモチベーションが高まりました。私は現在、臨床実習で終始緊張しながら患者さんと向き合っています。あの時見たマルメの学生を思い出しては、前向きに経験を積んでいこうと自分を奮い立たせています。

改めまして、貴重な機会をくださった小川先生、石田先生をはじめ、引率してくださった竹原先生、今回の派遣で携わってくださった全ての方々に関心より感謝申し上げます。

タマサート大学SV報告

歯学科2年 山田 珠詩

2024年3月10日から11日間、タマサート大学歯学部へ訪問する短期派遣(SV)プログラムに参加いたしました。タマサート大学歯学部はバンコクから北へ約40kmに位置するキャンパスにあり、大学病院が隣接しています。タイの気候はここ数年の新潟の酷暑と同じくらいでしたが、その後さらに暑い季節が来ると聞き驚きました。

タマサート大学では病院見学やいくつかの実習をさせていただきました。病院見学では5、6年生の臨床実習の様子を見学したほか、病棟でタイでの歯科医療の実態について学びました。臨床実習の制度など日本と似ている点がある一方で、歯科トラブルの原因に外傷が多いことやブース内に歯磨き練習用の大きな流しが設置されていることなど、日本と異なる部分も多くありました。

実習に関しては治療中の姿勢についての講義、フッ化物入りジェルを作成、口腔内スキャナーの操作など様々な体験をすることができました。特にハンドピースを使用し、練習用の実際の歯に対して切削や充填をする実習では臨床実習以前に本物の歯を削る感覚を体感できる貴重な機会となりました。

訪問中は主に歯学部2年生のバイリンガルコースの方々が付き添ってくださいました。一緒に昼食や夕食をとったり、ショッピングに行ったりし、勉強や課題などで忙しい中常に気を遣ってくれました。また、英語の堪能な2年生に囲まれたTBLの授業体験では、主体的にコミュニケーションをとるための英語力の必要性を痛感させられま

した。生徒の会話のスピードが早く、理解するのに精いっぱい自分の考えをうまく表現できない状況にもどかしさを感じました。

また今回、国際交流サークルの活動で昨年一緒に新潟観光をしたタマサート大学6年生の方々と再会することができました。訪問先にタマサート大学を選んだきっかけの一つが当時のその学生との交流で、大変印象に残っています。そんな方々と再び会えたことは嬉しく、SSSVに参加して良かったと思っています。現地では週末に時間を作って日帰り旅行を企画をさせていただいて、アユタヤを満喫することができました。

今回のプログラムではこのほかにも沢山の貴重な経験や出会いをさせていただきました。ここでの経験をきっかけに今後も広い視野を持って歯学や英語の勉強に努めていきたいと思っています。

最後になりましたが、今回の派遣でご支援いただいた石田先生、引率いただいた照沼先生、学内や現地でお世話になった方々に心より感謝申し上げます。



タマサート大学歯学部前にてSVメンバーと
(筆者は右端)

歯学部生の今

歯学部生の活動

歯学科1年 吉川陽向

新潟大学に入学してから半年以上が経ち、大学生活にも慣れてきました。入学当初は知らないことばかりで、新たな生活への期待よりも不安な気持ちが大きかったです。また、初めての一人暮らしということもあり、料理に洗濯など分からないことだらけでした。しかし、日々を過ごす中で新しい友人が少しずつ増えていき、勉強面だけでなく生活面においても助け合っていけるようになりました。そのおかげで、不安だった大学生活も少しずつ楽しくなっていく、今では日常生活も含め充実した毎日を過ごしております。

前期の授業では、「今のうちに沢山履修しておいた方がよい」という先輩方のアドバイスをいただき1年間で取得しなければならない単位の約8割を履修しました。また、前期は週に1度旭町キャンパスで行われる早期臨床実習・歯学スタディ・スキルズもあったため、自分が想像していた大学生活よりも忙しく感じました。特に早期臨床実習は実際に病院に赴くことが多く、ほとんどのことが初めてで不安や緊張でいっぱいでした。しかし、実際に治療している現場を見学したり、自分たちが患者役となって治療してもらったりするという貴重な経験を通して、自分がどんなことに興味があり、将来どんなことをしたいのかといったことを考える絶好の機会になりました。また、それが自分自身に歯学の知識が全くない状態

での臨床実習であったからこそ、患者さんの気持ちをより理解できたと考えます。1年生の間に体験し、学んだ経験を2年生以降の学びにも生かしていきたいと強く思いました。

また、大学生活は勉強だけではなく、部活動やサークルもとても充実しています。私は旭町水泳部と全学の水泳部に所属していますが、大学での部活動は中学や高校の時の部活動とはまた違った楽しみがたくさんあります。毎週の練習が楽しいのはもちろん、練習のあとの部飯、大会の後の打ち上げ、1年の中で季節に応じて開催される様々なレクリエーション等です。特に、夏に開催された浜コンは強く印象に残っています。浜コンでは、1年生から6年生までが学年関係なく海やバーベキューを楽しみ、より部員同士の絆が深まったと思います。

最後に、2年生になると1年生の時とは違い、学習内容はより専門的なものになっていくと聞きました。今は、これから多くの知識を本当に習得できるのか、そして実習等をしっかりとこなしていくことができるのかなどの不安な気持ちも多々あります。しかしその反面、自分のやりたかったことがようやくできるという高揚感が強くあります。これからの大学生活も、様々な方の支えの上に成り立っているということを忘れずに、何事にも全力で取り組んでいきたいと思います。まだ半年ではありますが、新潟大学での学びに大変満足しており、目標の歯科医師を目指して努力していきます。

歯学部生の今

歯学科1年 中 塚 莉 乃

4月に入学したのもつかの間、1年生として過ごす日々も折り返しを迎えました。地元を離れて始まった新生活にも慣れ、友人と顔を合わせたり、部活動に励んだりする日々充実感を覚えています。秋も足早に過ぎ去り、にわかに寒くなりましたがこの頃の天気は新潟の冬を感じさせますが、下がっていく気温とは裏腹に、私を取り囲む環境の温かさが身に染みんでいます。私個人としては4年ぶりに学生生活を送ることとなり、入学した当初は年の離れた同級生との接し方に悩むこともありましたが、夏休みには2泊3日で金沢へ旅行に行くほど親しい間柄にもなり、気さくに話しかけてくれた友人にはとても感謝しています。

さて、歯学部生の今ということで、後期の授業も始まって2ヶ月が経とうとしています。五十嵐キャンパスでは歯学と離れた授業が多く開講されており、自分の興味関心のある授業を受けることができる一方、毎週金曜日に旭町キャンパスで実習を行っていた前期に比べ、歯学部生と顔を合わせる機会が大幅に減ったように思います。学校生活では限られた友人と顔を合わせることがほとんどですが、幹事を中心に運動会の打ち上げや忘年会などを企画してくれており、学年全体の親睦が深まっていくのを肌で感じています。

私が所属している軽音楽部では、年に5回ほど古町のライブハウスを借りてバンド活動をしています。現在は1月のライブに向けて練習を重ねていますが、初めてギターを弾くことになり、ようやくバンドマンらしくなってきたなとワクワクすると同時に、焦りや心配にも苛まれている毎日

です。年齢を重ねるにつれて「初めて」がほとんどなくなったことに加え、チャレンジできる環境にいても失敗などの恐怖から新しい物事に取り組むことを避けるようになっていました。しかし、入部してから先輩方だけでなく同級生の演奏する姿を何度も目にし、私もやってみたいという気持ちが芽生えました。今回は先輩からの後押しもあり今日に至ったのですが、やはり何事も初めからうまくいくわけではなく、理想と現実のギャップに直面し業を煮やしています。久々の新しい挑戦には悩まされるものだなと参っていましたが、最近はこのもやもやが逆に楽しいのだと、日々の成長に面白みを感じています。

高校卒業以降、自分で選んだとはいえ周りの友人とは違う人生を歩む毎日で、鬱々とした気分になることも多くありましたが、コロナ禍を経て、多くの学生でにぎわうキャンパスで学生生活を送ることができる環境にとっても感謝しています。これから先の学生生活でも、壁にぶつかったり困難に直面したりすることが多くあると思いますが、自分の選択に責任と自信をもって日々過ごしていきたいです。



金沢旅行での1枚（筆者右端）

歯学部生の今

歯学科2年 藤岡侑剛

はやいものでもう歯学科2年の後期が始まりました。この大学に入学した日はおろか受験勉強をしていた頃も、ついこの前のことのように思い出されます。「歯学部生の今」というテーマでこの文章を書くにあたり、自分の今とこれまでの歩みを考える良い機会になりました。私にこのような機会をくださった編集部の皆様にここで感謝を述べさせていただきます。

歯学科2年生になり、歯科の専門知識やそれを学ぶための基礎的な知識を扱う科目が格段に増えました。前期は座学が中心で、高校の授業のような感覚でした。後期では実験や発表を行う科目が増え、より一層他の人とのコミュニケーションやスケジュール管理が重要になったと感じています。歯学科2年生は先輩方が口をそろえて勉強が忙しかった言う学年です。例にもれず私も試験勉強で四苦八苦しましたが、なんとか乗り切ることができました。試験勉強をする中で気が付いたのは、今まで学んだ知識がかなり生きるといことです。私は高校時代に生物と化学を学ぶのが純粋に楽しく、大学受験には必要ないような知識も多く覚えていました。そのため、生理学や生化学な

どでは、高校の生物や化学で得た知識を足掛かりにして知識を効率よく身につけることができました。医学研究について学ぶような科目では、1年生の頃に教養として受講していた統計学の知識が生きました。当時は将来の利益などを全く考えずに純粋な興味で努力したこと（伏線）が意図せず、そして、最初からそうなるように計画されていたかのように今の自分を助けてくれている（回収）。映画やドラマでよく見る「伏線回収」ようだなと思うことがあります。先日実家の自分の部屋を掃除していたら、私が小学6年生のころ授業で書いた10年後の自分あての手紙が出てきました。その手紙には、「歯科医師になるために歯学部に入っていますか？」と書いてありました。この時に私が感じた不思議な高揚感と感動は、映画の伏線が回収されたあの時の感覚に近いと今この文章を書いていて思います。私が経験した「伏線回収」は些細なものです。しかし、人生の歩みを進めるうちに自分が張った伏線が予期せぬところで回収され、より大きな影響を人生に与えることを予感しています。

伏線は今の自分の行動によって張られていくものです。まだまだ歯学部の学生生活は続きますが、学業もそれ以外も臆せず様々なことに挑戦し続けていきたいと思っています。



歯学部生の今

歯学科2年 長谷川 綾 音

2年生に進級して早くも前期が終わり後期に入りました。後期に入り、グループ学習や発表、実習など前期で学んだことを活かす講義が始まりました。今回は前期を振り返りたいと思います。

まず歯学部運動会についてです。私が所属する軟式テニス部は運動会の前座を務めることになり、Adoの『唱』のダンスを披露しました。着ぐるみを着て踊ることはとても恥ずかしかったですが、運動会を盛り上げるという前座としての役割を立派に果たすことができたのではないかと思います。そして前座で踊ったことにより恥ずかしさを捨て、怖いもの知らずの状態になったのでその後の競技を全力で楽しむことができました。また1年生の頃に比べ同期の仲が深まっていたので、今年はより盛り上がり楽しく参加することができました。

夏休みにはオールデンタルが開催されました。今年は仙台での開催で連日とても暑かったことを記憶しています。そのため試合後に食べたアイスは格別でした。去年はテストと大会が被ってしまったため初日しか参加することができませんでした。しかし、今回は団体戦、個人戦ともに参加することができ、悔しい思いも沢山しましたが他校の人と交流したりなどよい思い出を作ることができました。また引退された先輩方が応援に来てくださりうれしかったです。とても力になりました。

た。そして男子団体優勝、男子個人戦優勝、準優勝と去年見届けることができなかった先輩方や同期の活躍を見届けることができ、感動の瞬間に立ち会うことができて幸せでした。来年はよりよい成績を収めることができるように頑張りたいです。

そして2年生前期の最も大きな出来事といえば定期試験です。2年生から専門科目の学習が始まり、将来歯科医師となるための医学の基礎を勉強していることに楽しさを感じる一方、膨大な量を覚え、理解する必要がある焦りを感じました。私は大学受験では物理を選択していたため生物の知識がほとんどないに等しく、授業内容をちゃんと理解するのに苦労しました。しかし、周りの友人に助けられ授業内容を理解することができ、無事に試験を終えることができました。友人には本当に感謝しています。友達と勉強をすると勉強方法が十人十色で新しい発見をすることができ面白かったです。また、試験勉強を通して互いに協力して高め合う姿を見ることができモチベーション維持につながりました。

前期の大きなイベントを振り返ってみると、大変なことも多かったですが、周りの人と協力し乗り越えることができました。前期の大変さを乗り越えられたことでこれからもやっていけるという自信をつけることができたと思います。後期は実習や発表が多く、同期と協力する場面が多くあります。前期に私が周りの人に支えられたように今後は私も支えられるように頑張りたいと思います。

歯学部生の今

歯学科3年 西脇 己太郎

歯学部に入学してから、すでに2年半が経過しました。最近、一週間が経つのが異常に早く感じます。講義の内容は基礎的なものから臨床的なものへと変わり、ようやく歯学部生らしくなったと感じる一方で、「あと3年で本当に歯科医師になれるのか」という焦りも感じています。今回は「歯学部生の今」というテーマで、現在取り組んでいる実習について書きたいと思います。

現在、歯冠修復学実習、歯形彫刻実習、歯の鑑別実習、そして病理学実習を行っています。歯冠修復学では、支台築造、全部金属冠の鑄造・合着、支台歯形成、TEC、個歯トレーの実習まで終わりました。この実習は映像コンテンツや実習書などの予習が多く、予習をしておかないと実習が全く進みません。予習をしてもできないことがあり、製作物のチェックシートが次々と溜まっていく状態です。しかし、この実習が一番楽しく、歯科医師としての勉強をしている実感が強いです。今後は、eポートフォリオを活用し、「どこがうまくいかなかったのか」「なぜできなかったのか」「できるようにするためには何をすべきか」を意識して取り組んでいきたいです。歯形彫刻実習では、上顎左側中切歯や上顎左側第一小臼歯のワックス彫刻、デジタルでの彫刻を行っています。自分の思った通りにワックスを削ったり盛ったりするのはとても難しいです。歯の形態的な特徴についての知識はあるものの、それをワックスに反映する技術が未熟なため、なかなか思い通りの形にすることができません。途中で投げ出したくなりますが、なんとか頑張っています。どちらの作業も実習時間内には終わらないので、ほ

とんどの作業を家で進めています。歯の鑑別実習では、実際の人の歯を使って鑑別を行っています。解剖学を学ぶ前は、歯の形は人それぞれ異なると思っていましたが、大きさは異なっても基本的な構造が共通していることに驚きました。中には摩耗している歯もあり、そういったものの鑑別は難しいですが、同期と知恵を出し合って取り組んでいます。病理学実習では、バーチャルスライドを使い、iPad上で異常組織像を観察しています。異常を理解するためには、正常な組織像の理解がいかに重要かを痛感しています。

どの実習も予習や課題が多く、さらにテスト勉強もしなければならないため、土日にも休む暇がありません。とても忙しい毎日ですが、2年後の臨床実習で最善の治療ができるように、今後の実習に励みたいと思います。



上顎左側中切歯のワックス彫刻

歯学部生の今

歯学科3年 富 永 彩 愛

3年生の山場と言われる前期の人体解剖学実習を終えて後期になりました。歯冠修復学実習やカービング実習が始まり、本当の山場はこれからではないかと疑わずにはいられないほど多忙な日々を送っています。

まず初めに、歯学科58期の紹介をしたいと思います。58期は一言で言えば「真面目」な学年です。講義に来られる先生に「この学年はお利口さんだね」と言われたり、予習状況を確認した先生に「この学年は真面目だなあ」と呟かれたりしました。確かに、授業の予習は完璧にして、授業中も必死にメモをとっている友人が多いです。ですが、私たち自身に「真面目」という自覚はなく、周りが頑張っているから自分も頑張ろうというクラスの雰囲気を感じられます。また、どんな時も真面目なわけではなく、歯学部運動会では盛んに盛り上がり、総合優勝と看板最優秀賞を取りました。クラスの皆が団結した瞬間で、1番の思い出となりました。

後期から始まった実習でも、クラスの団結力を垣間見ることがあります。各教科で実習が始まりましたが、私はカービング実習で苦戦しています。カービング実習では、長方形のワックス棒から歯の形を形成していきます。それぞれの歯には特徴があり、全てを彫刻に表現することは非常に難しく何度もワックスを盛り直しては削ってを繰

り返しています。いち早く完成した友人はワックスを削るコツを教えてくれたり、放課後や休日と一緒に作業してくれます。友人に助けられ、私も不器用ながらも中切歯を削り終えました。支えてくれる友人に感謝する日々です。また、歯科補綴物を製作する冠ブリッジ実習も行っています。予習を前提とした授業構成のため、前日の放課後は友人と予習に励んでいます。先日は歯の石膏模型を製作しました。精密な歯の形を再現するためにいくつもの工程をクリアする必要があり、実習終盤は体力が限界に近づいていました。学校の実習で疲れて家に帰っても休めるわけではなく、次の日の予習をしたり実習時間内で終わらなかった作業を行ったりと多忙ながらも充実した日々を過ごしています。

3年生になってからは歯科の臨床的な内容の講義が増えたため、家族や学外の友人から歯についての相談を受けることが増えました。例えば歯間ブラシを使った方が良いのかや、歯の破折時にどうすれば良いかです。知識がついてきたとはいえ、実際に質問されると曖昧な部分が多かったり、一般の人にも分かりやすい用語で説明するのは非常に難しいと感じました。今後も学習を重ね、歯科医師になったときには完璧な説明をしたいと思います。余談ですが、飼い犬の歯についての相談は流石に分かりませんでした…。

気が付けば歯学部六年間の折り返し地点も迫ってきています。今後も多忙な日々が続きますが、友人と支え合い、自分を奮い立たせて頑張りたいと思います。

歯学部生の今

歯学科4年 山本 麻衣花

気づけば4年生も半年が過ぎてしまい、「歯学部6年間の折り返し地点が始まる!」と意気込んでいた4月がついこの間のように感じることに、時の流れの早さを感じます。

4年生前期からはより専門的な教科多くなりました。講義のスライドも実際の症例の写真を用いたものが増え、自分たちで症例検討をする授業も多く、臨床の現場に徐々に近づいているように感じます。講義の中では「国試では…」 「CBTでは…」という言葉を書く機会も多くなり、その言葉を聞いて即座にメモを取る同級生も増えたことで自然と私自身も焦りを感じているところです。実習については全部床義歯の製作を行いました。教科書や動画では一言で書かれている工程に、実習の中では何時間もかかってしまうことが多く苦戦しました。時間をかけて制作した義歯は自分の部屋に飾るほど思い入れの深いものになりました。

夏休みは部活動が主軸となった生活でした。4年生前期までの1年間は主将として、特にデンタル期間中に集団をまとめることの大変さを強く実感しました。私の所属する弓道部では、今年のデンタルは福岡県で開催されました。夏休み前半はデンタル強化練の毎日で、強化練中も部内戦など積極的に行い、技術向上だけでなく、部員間の親睦をより深められました。結果は悔しいものと

なってしまいましたが、自分の反省を見つけることができたように思います。デンタル後半では、観光をして私自身初めての九州地方を満喫することができました。デンタルが終了し無事新潟に帰還した際は、「1年なんとか主将の役割を果たすことができた」と安堵の気持ちが強かったことを覚えています。私自身は団体をまとめ上げることがとても苦手な性格なのですが、主将としての1年を通して周りを頼りながらではありますが、自分の新たな面を成長させることができました。

後期からは授業も実習の時間が多くを占めるようになり、より歯学部らしさを感じるようになりました。低学年だった頃は、白衣を着て大きな道具箱を持っている先輩方を見て、実習を待ち遠しく思っていたのですが、実際に取り組んでみると、楽しさを感じるよりも自分の無力さを痛感することばかりです。授業や予習で理解できたと思っても、実習になると思うように手を動かすことができません。自分の技量の無さを悔しく感じる一方で、自分の将来像を考えるきっかけとなり、理想となる歯科医師像を考えることで実習のモチベーションと保っています。

5年生に進級すれば、CBTやOSCE、臨床実習など、多くの壁が立ち向かっています。先生や先輩方からは、学年が上がっていくほど、一人ではなく友達と一緒に取り組むことが大切だ、という話をたくさんお聞きするので、クラス一丸となって、今後の学校生活を送ることができればと思います。

歯学部生の今

歯学科4年 賀 来 穂 高

こんにちは。歯学科4年の賀来穂高と申します。今回、「歯学部生の今」についての原稿依頼を頂きましたので、現在私が取り組んでいる日々の講義や実習、そして部活動（陸上競技）の二つの項目について書かせていただきたいと思います。

まず初めに、日々の講義や実習についてです。現在、歯学科4年生の時間割では1週間のうち4日間に実習がある形となっていて、その実習の多さからも5年生以降の臨床実習が徐々に近づいているということをひしひしと感じています。例えば、現在行っている実習のうちの一つである欠損補綴学IIでは、ブリッジの支台歯を形成したりTECを作製したりしています。3年時に行った実習の歯冠修復学の時に苦しんだのと同様に、周りの同級生と比べて形成するスピードが遅かったり、上手く形成できなかったりして焦ることもあります。しかし、歯学科に在籍していて将来歯科医師になろうと思っている以上はできなければいけないことです。よって、どの実習にも共通することですが、日々の実習の中で先生方にアドバイスをいただいたり、予習を行う中でどのようなことがポイントとなるのかといったことを把握してから実習に臨むことが大切であると感じています。また、講義や実習では臨床に直結することを多く学んでいるのですが、4年生になってからは

実際の患者さんの症例を見て、どのような症状がありどのような治療が必要かということを考える機会が多くなってきたと感じています。今まで学習してきた断片的な知識をうまく組み合わせながら考える必要があり、さらに多くのことを学ばなければいけないと感じています。5年生の夏にはCBTやOSCEが控えていたりするなど不安なことはありますが、その不安を打ち消すためにも今よりも積極的に学びを深めなければなりません。

次に、自身が部活動として行っている陸上競技について書かせていただきます。私は陸上競技を10年以上にわたって続けてきました。しかし、部活動として陸上競技を続けることができるのも後2年間と少ししかないと考えると少し寂しく感じると同時に残された期間でもっと努力しなければいけないとも思っています。私が所属している陸上競技部の周りの先輩や同期、後輩には陸上に対して真摯に取り組むお手本となるような人が多くいます。よって自分がそのような環境で陸上競技に取り組むことができていることは良い刺激にもなるため、4年生の夏を終えて引退した身ではあるものの可能な限り部活動に参加し続けるつもりです。一見シンプルに見える、走る、跳ぶ、投げるといった動作も実はとても奥が深く、どうしたらもっと上手く動けるようになるのかを考えながら練習する事が陸上競技の醍醐味でもあり面白さでもあると個人的には思います。陸上競技ができる残りの期間を楽しみつつも来年は今年よりも良い結果が得られる事を期待しています。



広島オールデンタルにて（筆者左から3人目）

意外と楽しい実習生活

歯学科5年 平野那知

初めまして。歯学科5年の平野那知です。今回初めて歯学部ニュースを書くことになり、嬉しさと緊張が相まった気持ちです。6年間で1回は書いてみたいなあと思っていました。せっかくなので楽しく書きたいと思います。

5年生の今はCBTとOSCEが終わり、11月には6年生からの臨床実習の引継ぎを終え、いよいよ1人での診療が始まります。わからないこと、できないことだらけで不安な気持ちもありますが、高校生の頃から憧れていた「歯医者さん」らしいことをついに自分がするのかと感慨深い気持ちでいっぱいです。

CBT、OSCEでは本試験で学年全員が一発合格することができました。夏頃は毎日のように図書館に通っていましたが、行くたびに同級生が勉強する姿を見かけ、団結感を感じました。なんとかCBTを終え、その2日後にはOSCEだったので7月の後半は怒涛の日々が続きました。後から振り返れば、意外と楽しい思い出です。

今は丁度6年生の先輩方から技工室の受け渡しが行われたばかりです。自分の机、冷蔵庫、電子レンジ、ケトルなど様々なものがあり、小学校の職員室のようなところで面白いです。早くも自分の机を好きなもので飾っている人もいて、個性が出ています。これから新潟の厳しい冬が始まりますが、技工室はいつも暖房でぽかぽかです。その代わりに乾燥がすごいので、わたしは近いうちに加湿器を持ってこようと思っています。

ここ最近では2つほど診療をさせていただきました。基本的な治療もひとつひとつが一大事のように

に感じ、顔が真っ赤になりながら診療しました。診療中はもちろん、事前の準備やミスをしてしまったときなど、周りの友人たちにとっても助けられました。また、臨床実習にあがってから、講義がなくなる代わりに先生に個別に指導していただく機会が増えました。分からないことを聞けばどの先生も時間をかけて丁寧に教えて下さり、とてもいい教育をさせてもらっていることを、恥ずかしながら初めて実感しています。そして、患者さんには来てもらうたびに長い間ユニットに座わって口を開けさせてしまい申し訳なさを感じるとともに、そんな中臨床実習に協力してもらえることに、とても感謝しています。

今までの模型実習は、クラウンブリッジ、部分床、全部床、歯内療法、歯型彫刻など色々ありましたがどれも「うわぁ次実習だ〜」といつも悲鳴をあげていました。ですが今は不思議と楽しく実習しています。これが初心になるのなら、結構良い初心を持てた気がします。まだまだ実習は長いですが、頑張っていこうと思います！



当院式の際にクラスの子と撮りました
筆者の位置：2列目1番右

歯学部生の今

口腔生命福祉学科1年 川 邊 樹実花

新潟大学歯学部に入學してから、早くも半年が経ちました。入學当初は、初めての一人暮らしや、新しい大学生活について不安を感じることもありましたが、今では優しい友達に恵まれ、そんな不安も忘れて充実した大学生活を送ることができています。

前期は、毎週金曜日に旭町キャンパスに通い、早期臨床実習や歯学スタディスキルズなどの講義を受けました。早期臨床実習では、治療の見学をしたり、患者役になって患者さんの立場で治療を体験したりしました。治療見学では、様々な診療科を回り、毎週新しい分野を知ることができました。病院の先生方は、歯科の知識がほぼない私たちに、専門的なことを分かりやすく説明してくださいました。歯科の知識をつけることができたと同時に、歯学部生としての自覚が芽生えました。

これを書いているのは、後期が始まって3週間ほど経った頃で、最近、新大祭がありました。学内には屋台が出店され、人も多くとても賑わっていました。ライブなども開催されていて楽しかったです。勉強については、今は歯学の授業はなく、教養科目の講義を受けています。入學したばかりの頃は早く専門科目を学びたいという思いがありましたが、教養科目を学ぶ中で、専門分野を学ぶのに必要な教養が自分にはまだ十分ではないと感じました。今では、教養科目が専門的な学びの重要な基盤になると考えています。特に、福祉学の講義では、福祉の様々な事柄を実務経験のある講師の方に教えていただき、具体的な事例や実践的な知識を学ぶことができて、自分にとってとても有意義な時間になっています。

五十嵐キャンパスに通うのも残り少なくなってきました。来年からは専門的な勉強が本格的に始まって忙しくなると思うので、今の毎日を大切に、勉学に励みながらも楽しく過ごしていきたいです。



2年生の今

口腔生命福祉学科2年 渡邊桃子

皆さまいつもお世話になっております。この度は歯学部ニュースの執筆の機会を頂いたので私の大学生活について紹介させていただきます。

今春から旭町キャンパスへ移動して半年が経ちました。口腔2年生の私たちは、後期から始まった相互実習と模型実習に日々励んでいます。相互実習を通して歯科衛生士の業務は口腔内の繊細な操作だけでなく、感染対策や滅菌作業などの衛生管理も大変重要であることを学びました。生命に関わる職業なので、患者さんに安心感を与えることができるように医療従事者としての意識を持って今後も実習に臨んでいきます。

実習では、頭で理解していても思うように手先を動かせず躓くことが多いです。そのような時でも先生方に「出来ていないこと」だけでなく、「出来ていること」も親身になってご教授していただけています。また、励まし合える友人や明るく頼もしい先輩方の存在が私にとって大きな心の支えになっています。不器用な私は実習で何度も失敗していますが、それでも挫折することなく向上心を持って頑張ることができるのは、近くで応援してくださっている方々のおかげであると思います。感謝の気持ちでいっぱいです。

私は勉学のほかに課外活動も大切にしています。私はダブルホームという、学生と教職員がチームになって地域課題に取り組む大学独自のプログラムに所属しています。メンバーは様々な学部にも属しているのでお互いの専門分野について話すことがよくあります。興味のなかった学問も話を聴く中で新たな面を知ることができ、その分野を学ぶ意義が分かったり面白さを感じたりと、視野を広げることができています。普段お世話になっている地域の方は、年長者や子どものような接点の少ない世代と交流をする機会が溢れています。特に年長者の方からは、同世代の人とはしないような昔の経験談や地域のことなど貴重なお話を伺うことができています。また活動全体から、地域の特色から得た知識、行事運営のやりがいやチーム活動の楽しさなど学んでよかったことがたくさんあります。ダブルホームで多様な人とつながる場ができたことで活動の度に新しい発見があり、とても充実しています。

このように、私は実習やダブルホームでの活動から他者とのつながりが自己成長のためにどれほど大切で、またどれほど温かいものであるかを実感するようになりました。これからも人とのつながりを大切に、そばで支えてくださる方々への感謝の気持ちを心に留めて日々を過ごしていきたいと思っています。



歯学部は今

口腔生命福祉学科3年 井 山 七 海

3年生の後期が始まり、残す学生生活は約1年半となりました。入学してから今日まであっという間に過ぎ、時の流れの速さに驚いています。2年生になってからコロナ対策が緩和され、全ての授業が対面となったことでクラスの友人とは毎日顔を合わせられるようになり、和気藹々と日々を楽しく過ごせています。今回、「歯学部は今」というテーマのもと、3年生になってからの日々と後期から始まった実習について執筆させていただきます。

3年生になってから歯科に加え、福祉の学習も始まり、複数科目同時進行のPBL、相互実習の総まとめ、福祉の現場実習など毎日1限から始まる日々で格段に忙しくなりました。1年生の頃、リモート授業が不満で「早く皆に会いたい」、「対面授業にしてほしい」、そう思っていました。今ではリモート授業が恋しいです。1限からの実習では集合が早いため、朝が弱い私にとってはとても憂鬱ではありますが、学校に行くと忙しいながらも友達との充実した楽しい学生生活が送れるので毎日頑張ろうという気持ちになれます。後期から臨床実習が始まり、今は2、3人ずつで各診療科を巡っています。実際に患者さんを相手に診療を行うことはとても不安ですが、病院で勤務されている歯科衛生士や歯科医師の方々、4年生の先輩方から沢山助けをいただきながらバキュームや器具・器材の準備など歯科衛生士としての業務を実際に行わせていただき、これまでの基礎実習や相互実習の学びをより深めることができています。診療内容によって使用する器具や器材が異なったり、患者さんによって診療方法を臨機応変

に工夫したりする必要があるため、まだまだ苦戦することが多いですが、回数を重ねるうちに大きくあった不安も少しずつ自信に変わっているように感じています。試行錯誤しながら歯科衛生士としての知識や技術を身に付けられるよう頑張っていきたいと思います。午前の臨床実習を終えると楽しいお昼ご飯タイムが待っています。友人と今日の実習の話やささいな世間話をして過ごすお昼の時間は楽しくて日々の活力になっています。

3年生になって大きく変わったことがあります。それは将来について考えるようになったことです。友人との会話に就職や結婚の話が出てくるようになり、もう21歳なのかと実感することが多くなってきました。皆それぞれ自分の目標があり、既に就職活動に向けて動き始めている人もいます。私は、今年の夏に地元の大学病院の口腔外科で実習をさせていただきました。病院での歯科衛生士の役割や雰囲気を知ることができたうえに、智歯の抜歯や往診での口腔ケアなどより近い距離で患者さんと関わることができました。歯科衛生士は1番近くで患者さんに寄り添え、コミュニケーションによって患者さんとの間に強い信頼関係を築くことができる素敵な職業だということに改めて実感しました。これまでの様々な講義や実習を通して自分の将来の方向性が定まってきたような気がします。

4年生からは本格的に病院実習が始まります。まだまだ力不足を痛感することが多い日々ですが、クラスの仲間と励まし合いながら1日1日を大切に過ごしていきたいです。これからの日々不安はありますが、一緒に悩みを相談し合える友人や親身に話を聞いてくださる先生方の存在がとても心強いです。恵まれた環境にいることに感謝しつつ、残りの学生生活を後悔のないよう充実したものにしていきたいと思っています。